

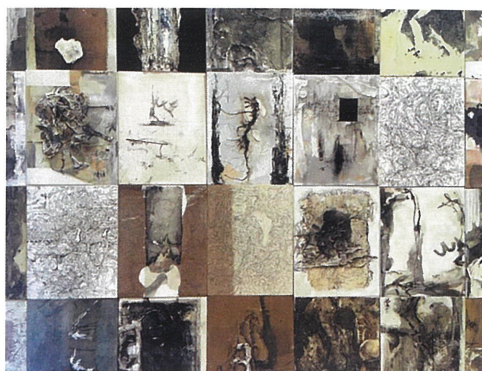
小松原智史「ばける | きえる | うけいれる」

近年、滞在制作・発表のプログラムに精力的に参加してきた小松原智史。さまざまな空間や環境に自らの表現を寄り添わせる作品発表の方法を探ってきた。

2019年末滞在制作のためスペインに渡った。コロナ禍と重なり、活動が制限されるなか、作品制作に専念しながら現地のギャラリーで日本人作家2名を招聘したグループ展を自ら企画するなどした。

10カ月後に帰国。画面や制作方法に大きな変化が表れた。線描をベースにしていた画面構成は、描線・着色にバリエーションが生まれてきた。

今展では、多数の絵画作品の集合体としての展示空間を構築する。



小松原智史

5月28日→7月10日
the three konohana (大阪) ②4

ジャン＝ピエール・カシニョール 展



《南仏の大海原を背にもの思うパリジェンヌ》162 × 130cm

ジャン＝ピエール・カシニョールの個展。ギャラリーためながでは13年ぶりの開催だ。

パリで三代続くオートクチュールの家に生まれ、華麗なファッションとそれを着こなす美しいマヌカンを目にして育った。美しい女性を主題に絵を描くようになった所以だ。

今展ではパリのブローニュの森やドーヴィルの海岸、近年アトリエを構えるジュネーブのレマン湖といった美しい風景と、そこに佇む女性を描いた新作を中心に約40点を展示する。

5月28日→6月19日
ギャラリーためなが (銀座) ⑬